

丹後地域戦略会議（令和2年度第1回）開催結果について

- ▶ 日 時 令和2年12月11日（金） 午後2時～午後4時20分
- ▶ 場 所 プラザホテル吉翠苑
- ▶ 出席者 丹後地域戦略会議委員；10名（谷口座長、今井委員、沖田委員、京崎委員、田中委員、野木委員、三田委員（オンライン出席）、藤原委員、安田委員、山口委員）

▶ 概 要

1 丹後地域振興計画の今後の推進について

- 各部長等から、丹後地域振興計画に係る主な取組状況及び今後の展開方向について説明

2 委員の主な意見

■ 住み続けることができる安心・安全な地域づくり関連

- ワークーションなど新たな働き方が注目されるなか、丹後地域へ人材の流入を進めるには、「デジタル化が進んだ地域」や「密にならない地域」などPRする必要があり、そのためにもデジタル基盤の整備の推進は重要
- 子育て支援に関して、3世代同居が多い地域であることがデメリットとなり働いている祖父母に負担をかけるケースもあり、3世代同居のメリットにとらわれず、子育てしやすい企業の環境づくりの取組を推進していくことが必要
- 通院など周辺部から市街地への移手段などについて、地域事情や住民ニーズを踏まえた規制緩和の検討を進めていくことが必要
今後、高齢化が一層進行するなか地域づくりを進めていくためには、地域のリーダーやそれを支える公務員の育成が重要
- 現計画の振興方策にとらわれず、ICTを活用した教育の推進などPOST・W I T Hコロナを踏まえた政策をどう展開していくかを発信していくことが必要

■ 稼ぐ力の強化による産業振興関連

- 観光振興について食の魅力、長寿など健康の観点、景観などすばらしい資源があり、京丹後の経ヶ岬から伊根などその資源の点と点を結び線とするような取組の一層の拡充が重要
- 農業の担い手対策は喫緊の課題であり、地域の農地をまかせるような地域のリーダーとなる担い手の育成が急務であり、水稻については国営農地の実践型学舎の後継としての水稻学舎設置などによる担い手の確保が必要
水稻を中心とした農業は厳しい状況で、特色ある米の販売戦略が必要であり、京式部の展開など今後の水稻の方向性を農家と共有して売れる米づくりを進めて

いくことが重要

- 人材確保について、高校卒業後、地元を離れた方のUターンは厳しいものであり、また、他地域からの採用した方は離職されるケースが多く、地元企業の魅力向上や高校生の就職説明会などによる地元での人材確保の取組を継続的に実施していくことが必要

- 新型コロナ収束後も新たな感染症の発生が想定され、新しい生活様式を踏まえた対応が必要であり、これまでの常識にとらわれず、これをチャンスとした取組が必要

たとえば、丹後ちりめん関連として丹後を日本の着物の倉庫化して、全国各地から着物を集め、オンラインにより必要な時に発送や一定年数が経過した着物の買い換えのセールスを行うなど、着物の振興について今までにない発想で取組を進めていくことが必要

- 織物業のコロナの影響は、他の産業より遅れており、5月以降に影響が出てきている状況であるが、今後もコロナ収束後も以前の状況には戻らないことが想定される状況。伝統産業は、以前から変わりたくても変わらない体質であるが、今回は変わらざるえない状況で、柔軟な発想でどのように変えられるかを検討することが必要

たとえば、織物業の人材確保についても、直接織物業に携わるのではなく、デジタルを活かしたPRする人材なども地場産業に携わる人材として考えるなど、柔軟な発想が必要であり、行政からの支援についても産業全体の包括的な支援が必要

- 建設業によるインフラ整備は、既にPOSTコロナのための動きであるが、商工業は、WITHコロナを、どう持ちこたえるかの状況であり、現状を直視し、今後のPOSTコロナにつなげていくためのプロセスを示すことが必要

たとえば、観光についてインバンドが戻ってくるのは、いつになるのかわからない状況であり、国内観光をどう進めていくかなどのプロセスを考えていくことが重要

- 観光について、現在のGOTOキャンペーンの中、旅館の中には、人材が確保できず、予約を断っている宿もある状況。旅館は、地域のプレゼンテーションの場と考えており、農業やちりめんなどの地域資源があるなかで成り立っているのであり、各分野の人材確保の取組を進めるとともに、たとえば料理人と生産者との連携により新たな加工品の創出など地域内でのコラボの取組を一層めていくことが必要

- 山陰近畿道の延伸に当たっては、現開通区間の利便性向上をセットに実施することが必要

- 地域活動については、今年は動けない状況であるが、足踏みをすると、一層地域が沈んでいく感覚があり、この中で何ができるかを考えてアクセルを踏むことが必要

■ 座長まとめ

- コロナについて正しく恐れ、現在を直視して今後の対策を進めていくことが必要
- コロナで生まれた、新たなビジネスチャンスや地域内で分野を超えたコラボによる

新たな商品の創出などの支援が必要

- WITHコロナがいつまで続くのか不明な中、時代の流れに応じた対応が必要